

Title	中世職人史(ピエル・ブリゾン原著, 白井勝喜代譯, 刀江書院發行)
Sub Title	
Author	有賀, 春雄(Ariga, Haruo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1928
Jtitle	史学 Vol.7, No.2 (1928. 7) ,p.154(308)- 154(308)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19280700-0154

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

る。(三、三、一、夜、武田勝藏)

中世職人史 (ピュル・ブリゾン原著 刀江書院發行)

從來の歐洲經濟史に關する邦人の文献は、多くは一般的な概説

であつて、微に入り細に亘つて論述したもののが極めて少ないやうである。故に今後邦人の歐洲經濟史研究は一步を進めて、根本的な個々の史實の探究に向ふべきであつて、斯くて邦人の歐洲經濟史研究は一層高い價値を有することとなるであらぶ。茲に於てか最近 pierre Brizon; *Histoire du Travail et des Travailleurs* の前半が「中世職人史」と銘打つて譯出されたことは洵に意義深いことである。

本書は中世より佛蘭西革命に及ぶ手工業時代に於ける工業勞働

者及び農民の生活について詳細に論述したものであつて、極めて興味ある豊富な材料を紹介しつゝ、それが綜合に妙を得たるものである。先づ初めに同業組合につきて述べ、近世に於けるブルジョアジーの元祖が中世の同業組合なることを説き、又大工業の起原に就いては、近世の大工業は佛蘭西革命以後を主とするも、實は大工業の起原は革命以前に存せることを明らかにし、更に同盟罷工は近世的產物に非ず、既に中世に於て近世のそれと類似せる同盟罷工の行はれしことを述べ、幾多往時の實例を擧げてゐる。

又「泣く土地」と題して中世農民の哀れむべき生活状態を述べ、「生れる土地」と題しては農民が漸次中世の拘束から脱して生活の光明を見出すに至りし狀を述べてゐる。此の外處々に於いて勞働

法制に論じ及ぼしてゐることも見逃し難いところである。然し要するに本書の特色は、中世の凡ゆる種類の工業勞働者の生活を詳細に寫し、其の状態を讀者の眼前に繚覩せしめる點にある。而して挿入された多くの圖版は一層此の書の價値を多からしむるものである。

譯者白井氏は法制史研究のため外遊され最近歸朝した人であつて、譯文の流暢にして平易明快なる、巧みに俗語俚言を使驅しつとめて中世的雰圍氣を再現せしむるに苦心せるは敬服すべきである。敢て萬人に薦むるに躊躇しない。(有賀春夫)

Josef Bayer, Der Mensch im Eiszeitalter

I. II. Leipzig u. Wien 1927.

豫てから、バイヤー氏の近著が出版せらるることを聞いて居つたが、此程漸く入手することが出来た。氏はウキーンに於ける自然史博物館に於ける史前學人類學部長で、塊國に於ける舊石器時代研究の權威である。それが豫てよりの研究を取纏められたもので、財政逼迫の塊國として、出版も遅れ、第一第二編のみを一冊として、今回出版せられたのも、こんな所に理由があるのでないかと、想像をして居る。

本書は其名の如く「氷河時代の人類」の研究であり、これを史前學上から云へば、舊石器時代の研究なのである。其第一編は *Der Weg zur Relativen Chronologie des Eiszeitalters* 即ち「氷河時代の相對編年への道程」であつて、これを四章に分ち、この時代